



報 会 窓 同 高 種

(題字 佐藤 惇 校長)

主な内容

あいさつ／2ページ
実習棟間もなく完成／3ページ
あの先生は今／5ページ

NO.3 2000.3

発行／岩手県立種市高等学校同窓会
〒028-7912 岩手県九戸郡種市町第38地割94番地110
TEL 0194-65-2145 FAX 0194-65-5654
ホームページアドレス <http://www.nnet.ne.jp/~tanekou>
編集／岩手県立種市高等学校同窓会報編集委員会

去る一月二十九日八戸プラザホテルにおいて、六十数名の参集の下、八戸市・階上町を中心に青森県内に在住する種高OBを正会員とする種市高校同窓会八戸支部が満場一致の決議より、めでたく設立されました。同窓会活動の広域的な浸透と会員相互の親睦、情報交換、そして母校の活性化への寄与を目的としての活動が期待されます。

八戸支部を運営するメンバーは別掲の通りですが、川崎文彦支部長を軸に、和やかな中にも、友好的に末永く活動されることでしょう。川崎支部長は「種市と三八地区は経済的交流が昔から深いつながりがある。私たち種高の同窓会員が八百八十人もいるとは思わなかった。これまでは近くに住んでいる人も同窓と知らずに過ごしてい

ることもあったと思うが、これからはこのことにより縁の深い知己が益々増えていくことと思う。八戸支部結成に際しては、一昨年の開校五十周年記念事業をきっかけにその気運が芽生え、周囲の方々の協力を得て、初期の目的を達成することができた。今後は支部交流会等で親睦を深め、母校を盛り上げる活動もして行きたい。それがやがては支

部の会員のプラスになるものと確信する」と頼もしい限りの所信を示していた。過年の東京支部、今回の八戸支部、そして次なる事業は久慈地区、盛岡地区の支部結成とは松橋武志会長の弁、次なる支部結成の起爆材になり得るように、四月から本格化する八戸支部の活動に期待すると共に目が離せません。頑張れ八戸支部！

八戸支部が設立



八戸支部長 川崎 文彦
(デーリー東北新聞社提供)

八戸支部役員

(敬称略)

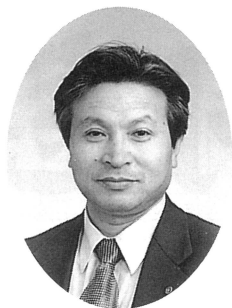
顧問	館石 清 (S34年度卒)	
支部長	川崎 文彦 (S46年度卒)	
副支部長	向谷地 ひろ子 (S43年度卒) (佐藤)	神子沢 善明 (S46年度卒)
幹事	佐々木 秀雄 (S42年度卒) (小田)	梨子 謙一 (S44年度卒)
	下大沢 勝男 (S49年度卒)	渡辺 邦博 (S52年度卒)
	高屋敷 季冬 (H9年度卒)	
監事	大川 隆一 (S47年度卒)	吉島 美樹子 (S54年度卒) (中里)
事務局	後村 妙子 (S48年度卒) (吉田)	中村 誠 (S48年度卒)
	横葉 和浩 (S58年度卒)	

() は旧姓

同窓会長・学校長・支部長

あいさつ

会員相互の理解で 成熟した同窓会に



同窓会長 松橋武志

同窓会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度は、会報編集、名簿管理、支部結成の各委員会を置いて、委員会が中心となって活動してきました。その中でも本年度の最も大きな成果は、同窓会八戸支部が設立されたことです。

設立は、一月二十九日、八

戸プラザホテルにおいて、八戸支部設立総会と祝賀会を六十数名の会員の出席のもと、開催することができました。

これも八戸支部設立発起人会の方々、同窓会支部結成委員会の皆さんの努力と青森県に在住するOBの方々の深いご理解の賜と感謝申し上げます。

同窓会では、これから更に久慈地区、盛岡地区にも支部結成を進め、より多くの会員の交流の中から、親睦を深められる会となるよう、努力して行かなければと思います。皆様方の一層のご協力をお願い申し上げます。

間もなく二十一世紀を迎える今、社会全体が大きく変貌しようとしております。我々の回りでも、県立高校の合併、再編成という動きがあります。我母校も学級減が予定されています。母校が縮小され合併となつて種高がなくなるというのではないよう、我々同窓会も学校当局と協力し、母校の活性化のために何ができるか考えなければと思えます。そのためにも我々は、会員相互の理解を深め、成熟した同窓会をつくるよう努力していかなくてはと思います。会員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

二〇〇〇年を 一層飛躍の年に!!



学校長 佐藤 惇

着任以来早くも二年になりますが、変わらぬ母校への愛情と声援とに満ちた同窓生の皆様にお会いするたびに、五十余年の本校の歴史の重みとといったものがありがたさや本校への期待の大きさと責任の重大さをひしひしと実感しているこの頃です。

前年度は種高にとり、五十周年を迎えた節目の年でありました。

同窓生の皆様には、絶大なご協力・ご支援を賜りました。

日ごろ母校に寄せていただきありがとうございます皆様のご理解とご支援に心より御礼申し上げます。

今、高校は教育改革の真っ只中にあり、激変する社会に逞しく生きる力を持った人材の育成を目指して鋭意努力を重ねております。

次に学校の近況をお知らせいたします。

本年度は、生徒が様々な分野で力量を発揮し、輝かしい成果を収めた年でありました。

全国高校総体には、レスリング部が出場し、団体は五位に、個人は三位に二人、五位に二人が入賞するなど部設立以来、最高の活躍をしました。

このほか、難関を突破して三名が海外派遣に、また全国家庭クラブホームプロジェクトでは一万六千余名の応募者の中から最優秀賞に輝き、更

結束を強化し 有意義な交流を



東京支部長 新保幸則

全国的に大変な不況が続きておりませんが、東京支部の会員の皆様方におかれましても、いろいろとご苦労されていることと存じます。

この様な時代だからこそ、やはり同窓会の仲間との交流

に国立大学に合格するなど枚挙にいとまがない状況です。これらの全てが、生徒や職員が努力が実ったものであり、今後の励みとなる成果であります。

二〇〇〇年という年が、一層飛躍の年になりますよう、私ども教職員一同新たな気持ちで母校の教育に尽力したいと存じます。

今後とも母校への一層のご支援を賜りますことと同窓生の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

や情報交換、学校と社会の連携が大事であり、本会の基礎・基盤をしっかりと張り上げていかねばなりません。

先日は八戸支部の結成が盛大に行われたところであり、東京支部もこれまで以上に参加員を増やしていくと同時に結束を強化し、有意義で交流の深い場となるよう努力していきたいと思っております。

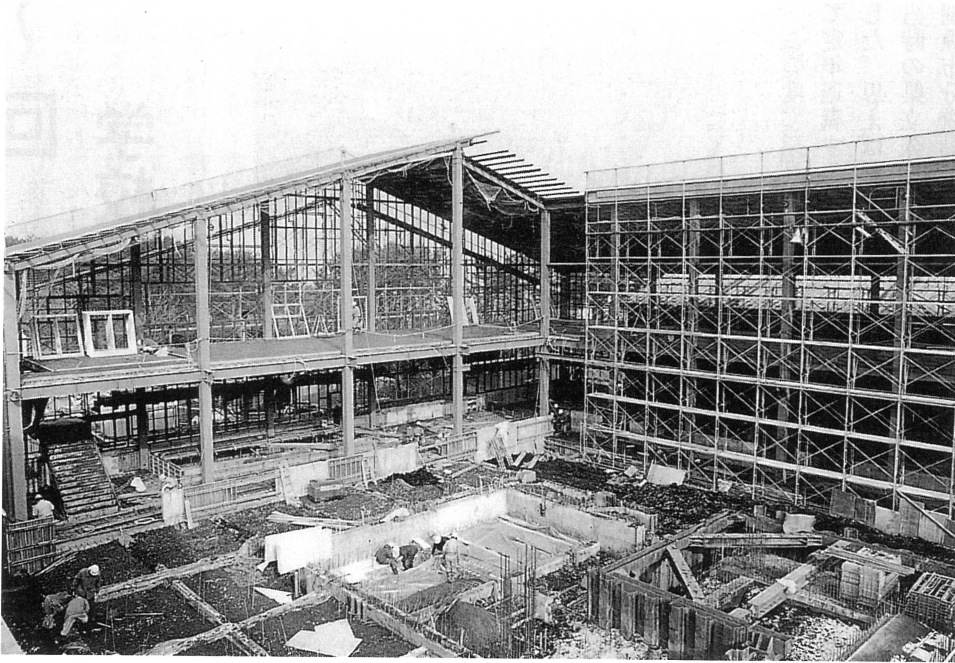
また、本部との強いパイプを今ままで以上に築き、故郷との情報交換等も活発にしていきたいと考えておりますので、会員皆様の益々のご協力をお願い申し上げます。

実習棟間もなく完成

昭和四十八年から二十七年間にわたり、水土木科・海洋開発科生徒八百八十六名の実習を支えてきた旧実習棟、プールが、この度新実習棟改築の決定に伴い、平成十一年

の十月をもって取り壊された。

新実習棟は、事業費五億六千万円で、屋内型のプールとなり、天候に左右されることなく実習が可能となり、特に



旧実習棟が壊され、新実習棟の建設が進む



完成予想図

潜水実習では技術の向上が期待される場所です。完成予定は今年の三月末で、現在も急ピッチで工事が進んでいるところです。

同窓生の皆様も、近くを通り際には、この実習棟に立ち寄っていただきたいと思っております。また、「種高祭」でも、体験潜水という企画も行っていますので、その時期になりましたならば、来校して体験してください。

有効に利用されています セミナーハウス白鷗館

	団体名	回数	目的	延べ人数
1	部活動(6団体)	15	強化及び調整合宿等	327人
2	同窓会	9	会報委員・理事会	56人
3	59年度卒業生	1	クラス会	30人
4	51年度卒業生	1	クラス会	30人
5	学習活動	5	宿泊研修等、学習会	68人

平成11年4月からの利用状況

のびのび コラム

1 学年 2 クラス

冬の寒さもだいぶ和らぎ、卒業・入学など学校を身近に感じる時期を迎えています。昔と比べ生徒が少ない。これは年々子供が減って行く少子化傾向で、学校に限らず、介護・福祉・医療など多くの方向に波紋が起きます。

平成十五年には、久慈水産・農林・商業が統合するというから驚きです。エッ、皆さんは知っていたんですか？我が母校もその年から一学年二クラスだけになってしまおうそうです。何だか淋しいことです。いつの日か、我が母校もなくなるかも…。

そんなことならぬよう、同窓会を通して関わって行きませんか？

五十四年度卒

吉島 美樹子
(旧姓 中里)

回顧

学校と同窓会の発展を祈念して



潜水実習をする坂本孝太郎先生

この度、三月三十日を以つて定年退職することになりました。思えば昭和四十年六月、当時の県立久慈高等学校全日制種市分校勤務の辞令をいだいて以来、今日まで約三十五年間、種市高校一途に勤めさせていただきました。その間、四十五年には種市高校として独立。また、潜水工業科から水中土木科、更に海洋開発科へと科名変更、実習船「種市丸」の竣工等々、幾多の返遷の中で過ごさせていただきました。潜水科第七期生（昭

和三十四年三月修了）の同窓生として、同窓会の事務局長として、また後半には事務局長として歴代の同窓会長さんのもとで同窓会の仕事に携わり、五十年間を機に、その役目から卒業させてもらいました。

レスリング部

赴任してすぐにレスリング同好会をつくり、呼びかけたところ、佐々木秀雄君（旧姓小田）始め六名ほど集まり、潜水工業科の教室に体育用マ

ットを二・三枚敷いてのスタートでした。当時はプロレスとアマレスの違いを理解してもらおうのも時間がかかるほどで、大変ではありましたが、団体出場を目指すとともに、高校時代の最高の思い出を：という思いがありました。創部から三十五年が経とうとしていますが、マット二・三枚からのスタートが今では立派な専用のレスリング場を建てていただきましたし、それに応えるべき成績も残しております。レスリングの種が時間ばかりでしたが立派な花を咲かせてくれました。これも一重に歴代の顧問の先生方の賜と感謝しております。

教え子達へ一言

潜水工業科、水中土木科、海洋開発科と科名変更もありました。一年課程から三年課程へと。在学中は手をととり足をとり潜水実習の指導してきた生徒達も、今は全国津々浦々の港湾やあるいは海外で活躍されていることと思いますが、事故のないようにと祈らずにいられます。これからも仕事に誇りをもつて頑張ってもらいたいと思います。

卒業生登場「私は今」



46年度卒業
神子沢 善明
八戸市石手洗

今回は、昭和四十六年度に潜水科卒業の神子沢善明さんを紹介します。『流れ行く歳月の早さを感じつつも卒業から二十七年が過ぎた。母の実家が種市という縁で門をくぐった種高であったが、意気込みとは裏腹に船上での実習では、つらいつらい船酔いとの戦いも今となつては懐かしい。対する感謝の念と、種高との出会いに対する思いは今でも私の中にあり忘れたことがありません。今後も地域社会に貢献する企業の一員として、たゆまぬ自己革新を続けてまいります』と謙虚な神子沢さんですが会社での活躍には目を見張るものがあります。氏が勤務する(株)サンデー

思い出です。卒業後三年目の八月に創業直前の今の会社に入社しました。種高での実習やサッカーの部活の厳しさにもまれたせいか、何とか今日に至ることができています。会社での仕事は、全店舗にわたる売場づくり、配置要員の策定、販売戦略の策定等です。農業一つで七人の子供を育て上げた今は亡き両親に

(おさむ)

あの先生は今



名：昆 正 實 先生
職：昭和44～45年
科：数 学
在：長崎市在住
現 在：長崎総合科学
勤 務 先：長崎総合科学
大 学 付 属 高 校

種市高校同窓生の皆さま、
こんにちは、創立五十周年と
なりまして、さらに次の大き
な節目に向けて力強く前進さ
れていますことを心よりお祝
い申し上げます。

私は昭和四十四年から四十
五年の二年間種市高校にお世
話になった者です。種市高校
は、大学を出て教員として社
会に一步ふみ出した場所であ
りまして、生涯決して忘れら
れない高校であります。当時
は、西も東もわからず、若さ
にまかせて体力と気力だけで
無我夢中に動きまわっていた
ことを覚えています。きっと
先生方や生徒の皆さんにはご
迷惑をかけていたと思います。
昨年度、創立五十周年のご案内

内をいただいたとき、そして
今、こうしてペンをとって
るとき、先生方や生徒の皆さ
んのお顔やお名前が次々に思
い出されて来まして、ペンの
進みを遅らせております。

数学の時間をつぶし、海で
遊んで小林教頭先生に「数学
に『生物』の項目があったか
な」とやんわり注意を受けた
たこと。種市分校から、種市
高校に独立し、校歌、校章が
出来たこと、制服についてい
ろいろ話し合われたこと、板
橋先生のご指導のもと野球部
の生徒と汗を流したこと、心
温かく芸達者な水中土木科の
先生方のこと、…など多くの
ことが目の前に浮かんで来ま
す。その中で私の教員生活と

共に歩き続けている忘れられ
ない一言があります。定期試
験のとき生徒が「先生、この
クラスは絶対にカンニングは
しませんから本など見てゆっ
くりして下さい。何かありま
したら私が責任をとりますか
ら：」と言ったことです。若
い私をからかっているのかも
と思っていました。次のベ
テランの先生のようにも同様
のことがあったとお聞きし、
私の気持ちがあつたお聞きし、
と覚えています。教育に大
切な「生徒を信頼すること」
を私に教えてくれた一言であ
りました。この言葉が種市高
校生そして同窓生の「心」で
あり「姿勢」であろうと今で
も思っています。今、長崎の
長崎総合科学大学附属高校で
数学と進路指導を担当してい
ますが、事あるごとに、この
話をしております。「野球」
も種市高校から出発し、今日
まで監督や部長をし続けてい
ます。甲子園まであとひと息
のときも何度かありました。
歳と共にシワも増え、髪も
白くなってきましたが、気持
ちはいつも「青年教師」と思
ってこれからも頑張っていく
つもりです。遠く長崎の地で
種市高校同窓生の皆様にも、
ご健康でご活躍されますこと

を、また私市高校がますます
ご発展しますことを心からお
祈り申し上げます。ペンを置かせ
ていただきます。ありがとうございます。
ございました。

(長崎県での時はご一報
下さい。ご案内いたします)

〒851-0134 長崎

市田中町七十七番地 TEL

095-1839-3724

ふるさと紹介

時代とともに 変化する種市

種市に生れ、育ち、今現在
も住んでいる私にとって、故
郷をどのように語れるか分か
らないのですが、私なりに何
十年の間に少しずつ変わって
きた種市を書き述べてみたい
と思います。

人と町ものんびりとした空
気の中で生きていて、様々な
世の移り変わりに無縁な所に
思えたものでした。交通の便
が良くなればなるほど、そう
思えたのです。なぜなら、病
院にせよ、娯楽施設にせよ、
八戸という都市が遠からず。
でも改めて周りに目をやれ
ば、時代とともにここ数年、

故郷種市は変化してきたので
す。小さいころから見てきた
海や山や川、手つかずの場所
が少しずつなくなっているの
です。きれいに整備された海
浜公園、ヨットハーバー、去
年は海水浴場も出来あがり、
大変なにぎわいでした。そし
て、県内外からたくさんの人
が来る場外馬券売り場、ナイ
ター設備のある野球場(オー
シャンビュースタジアム)、
宿泊温泉施設(あぐりパーク
おおさわ)、町の顔である役
場の新築、そして今また、文
化会館が建設されている。

まさに時代の流れに押され
るかのよう、大きな建物が
建ち、自然が消え、昔からの
風景が少しずつ減っていく。
時代の流れとはいえ、とても
寂しい気がするけど、これか
らもどんどん近代化していく
ことでしょう。これからの人
たちにとっては、素晴らしい
ことであって、悲観すること
ではないのですが、寂しい気
がするの、我が種市に対す
る愛情だと思ってくだされば
と思います。

そんな故郷種市を離れてい
る同窓生の皆様、ちよつとず
つ変わってきた種市をみてみ
ませんか。

四十八年度卒 館石順子

奮闘努力Ⅰ

レスリング部インターハイ

過去最高の五位



表彰後、関係者が喜びの記念撮影（前列左から5人目は個人戦3位の八森大輔君、同7人目は同じく3位の馬場徹君）

目標達成の喜び 実感できた大会

三年B組 馬場 徹

(キャプテン)

僕たちレスリング部にとつての一番の思い出の大会は、やはりインターハイだろうと思う。思い返してみると、入部したときは、ほとんどの人がレスリングについて、何一つ知らなかった。それ以上に

毎日の練習の厳しさも知らずに入った人ばかりだった。それから二年半、厳しい練習をしてきたという自信と、岩手代表としての誇りをもって、岩手インターハイを迎えた。みんなの体調は絶好調だった。そして何より、今までにないぐらい気合が入っていた。それは、地元インターハイといふこともあったが、それ以上に応援してくれる人たちの期待にこたえたかったからだ。今は思う。そういう中で、僕たちは最高の波に乗ることができた。そして、団体ベスト8という目標を達成することができた。そのとき、多分、三年生全員が初めてレスリングを続けてきて良かったと思つたのではないかと思う。努力することはきついことだ。しかし、目標を達成したとき、「今までのきつさを上まわる喜びを手に入れることができる」と、初めて実感できた思い出の大会だった。

顧問から

喜びの声

濱道 秀人

平成十一年八月一日から四日まで宮古市総合体育館で開催されました第四十三回全国高等学校総合体育大会（岩手インターハイ）で、これまでにない学校対抗戦5位入賞という最高の成績を残すことが出来、大変うれしく思っております。

岩手インターハイの目標は高くと思ひ、選手達には「ベスト8」以上を目標にさせ、月に1・2回の合宿や仙台や関東への県外遠征を例年よりも多く取り入れ、岩手インターハイに向けて選手たちは強化に励んできました。私信は先輩たちのベスト16に並べたらいと思つていましたが、学校からの応援や地元の声援に後押しされて、一試合毎に選手達が勢いに乗り、自分の力を十分に出しきった結果がいい成績につながったと思います。本校は昔に比べれば生徒数も少なくなってきましたが、母校の後輩たちの活躍が全国各地で活躍している先輩たちの耳に少しでも届くように、

奮闘努力Ⅱ

家庭科の研究で

全国の最優秀賞

二年B組 上大澤智恵子



海外研修する上大澤さん

これからも上を目指して頑張らせていきたいと思ひます。

第十三回ホームプロジェクト・コンクールで食生活を見直した私の家庭科の研究が、全国で十人しか選ばれない最優秀賞に入ったと聞いたときは、とても信じられませんでしたが。この結果一月三日から十日までの八日間、アメリカでの海外研修に行くことになりました。この研修は、一日体験やホームステイ、市内見学が

中心でした。私のホームステイ先は、おばあさんと私と同じ年ごろのお孫さんと二人で暮らしているところでした。夜は私が作って持っていた「福笑い」で遊び、いろいろ話をして過ごしました。食事はパンと肉類が中心で味が濃いものばかりだったので、日本食が恋しくなりました。高校の見学では、授業に参加し、折り紙をしたりして、アメリカの高校生と交流をしました。今回の研究と海外研修で、いろいろな人と接することができました。その中で、さまざまな考え方があり、人それぞれ違って当たり前だということが分かりました。これからは人に対して優しくなれるような気がします。そして今私はまたさらに新しい自分を見つげるために積極的にいるいろなことに挑戦しようと思ひに決めています。最後に、今回の研究でご指導いただきました保健センターの職員の皆さんやひらなない児童館の先生方、特にクラスメイトの保護者である鍋久保美智子先生の心遣いには感謝しております。ありがとうございました。

奮闘努力Ⅲ

工業クラブ

家庭クラブがダブル受賞

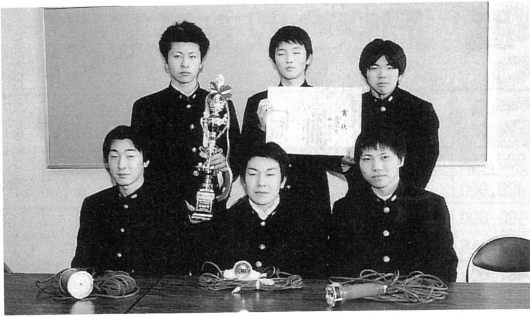
第十回岩手県高校工業クラブ連盟生徒研究発表大会
チーム

「水中撮影用

小型ハウジングの製作」

☆最優秀賞受賞

本校海洋開発科では、今年で十回目を数える、この工業クラブ研究発表大会に力を注いでおり、これまでも七回の入賞を果たしています。そして、今年度はさらに頑張り、最優秀賞（二度目）を受賞し、八回目の入賞を果たしました。



受賞に喜ぶ工業クラブメンバー

第四十九回岩手県高校家庭クラブ連盟研究発表大会
チーム

「我ら健康推進隊」

☆優秀賞受賞

家庭クラブも工業クラブ同様、大変頑張っています。家庭クラブは歴史も有り、参加校も多いため、入賞が難しいのですが、優秀賞受賞という素晴らしい成果を収めることができました。

今後、工業クラブ研究班と競い合いながら、頑張っていきたいと思っています。

私の近未来

目標は医者

一年B組 松尾有三

僕は今、普通科の一年生です。そもそも僕がこの学校に入学してきた理由は、前に潜水関係の仕事を手伝っていて、潜水士になりたいということからでした。

しかし、海洋開発科でやっている内に、しだいに人を助けるような仕事をしたくなり、普通科へ転科をしました。父が医者をしているので、後を継ぐためということもありましたが、一番の理由は、小さ



受賞に喜ぶ家庭クラブメンバー

いころから父の姿をみてきたし、医者という職業につき、多くの人のために働きたいからです。そして、高齢者や体の不自由な人たちのためにも、何かしてあげたいからです。それから、急に勉強をがんばりたいと言った僕を両親や先生方も応援してくれ、とても勉強しやすい環境をつくってくれました。以前とは変わって、生活習慣もよくなり、勉強をやる姿勢も良くなったと思います。

私の進路

三年A組 大谷真砂美



私は、小学校のときからやりたいと思っていた仕事がありました。「盲導犬の訓練士になりたい」これは、私の夢でもあり、高校二年生まで、この夢は叶えられると信じていました。しかし、現実には甘くない、どこの訓練所も当分募集しないということで、この時は夢をあきらめました。

三年生になり、進路を決めなければならぬのに、私はやりたいことがなくなってしまったために何をしたいの

～平成11年度進路状況～
平成11年2月20日現在

	就 職						進 学				合 計		
	管内	県内	八戸	県外	その他	未定	大 学	短 大	高 専	専 門			
普通科	7	4	7	16	32	3	2	1	4 (2)	4	14	23	62
海洋開発科	4	0	0	15	19	0	0	2	0	0	0	2	21

かわからずにいました。そんな時、先生から東京の信用金庫を紹介され、最初は自分の性格上、接客は向いてないし、できないと思いました。それでも、先生にいろいろ話しを聞いていくうちに考えも変わってきて、私はその信用金庫を受ける決意をしました。

希望先が決まり、今度は履歴書書きと面接練習に追われました。試験日となり、東京にある会社へ、不安を抱えながら行きました。会社は大きく、通された応接室には、集合時間の三十分以上前だというのにたくさんの受験者が来ていて、みんな頭が良さそうに見えました。筆記試験もどうにか頑張り、面接も高校で頑張った部活（バスケット）のことを多く聞かれ、自信を持って話すことができました。

試験から一週間後、会社から採用という連絡をもらいました。この超氷河期というときに、内定をもらえて本当に良かったと思います。進路を決めるときにはずいぶん悩み考えたけれども、今はとにかく頑張ろうと思っています。初めての仕事、東京ということで、戸惑いもありますが、先輩方の後に続き頑張りたいと思います。

平成12年度 同窓会総会

日時 平成12年5月28日(日) 15時～
会場 「セミナーハウス白鷗館」

但し、上記のことには変更が考えられますので、問合わせの上、ご出席ください。

東京支部総会

日時 平成12年6月24日(土) 18時～
会場 「労働スクエア東京(中央区)」

を予定しています。

詳細については新保幸則支部長(東日本海洋会社 ☎0436-22-5114)まで連絡ください。

八戸支部総会

日時 平成12年7月22日(土) 17時30分～
会場 「八戸プラザホテル」

但し、上記のことには変更が考えられますのでお問合わせの上ご出席ください。



平成11年度 同窓会収支予算書

1 収 入 (単位 円)

項 目	前年度 決算額	本年度 予算額	比較増減		適 要
			増	減	
1. 繰越金	1,667,353	960,984		706,369	前年度繰越金
2. 会費	421,500	420,000		1,500	280人×150円×10カ月
3. 年会費	—	100,000	100,000		100件×1,000円
4. 雑収入	245,056	16		245,040	銀行利息
合 計	2,333,909	1,481,000		852,909	

2 支 出

項 目	前年度 決算額	本年度 予算額	比較増減		適 要
			増	減	
1. 事務費	274,146	50,000		224,146	プリンターインクリボン、タックシール
2. 通信費	380,269	350,000		30,269	総会等案内、会報送料
3. 印刷費	250,775	150,000		100,775	支部総会案内、封筒、会報
4. 会議費	139,496	50,000		89,496	定期総会ほか
5. 旅費	81,440	100,000	18,560		支部総会
6. 事務局手当	—	20,000	20,000		
7. 支部援助費	20,000	150,000	130,000		
8. 卒業記念費	40,800	45,000	4,200		卒業証書入れ筒
9. 研修費	109,999	70,000		39,999	支部総会
10. 慶弔費	15,000	30,000	15,000		職員歓迎会、送別会
11. 雑費	33,000	66,000	33,000		
12. 予備費	28,000	400,000	372,000		
合 計	1,372,925	1,481,000			

インフォメーション 同窓会事務局から のお願い

● 会費

同窓会の運営資金は、在校時の同窓会費と会員の皆さんからの年会費で賄われています(収支内訳は別項参照)。

事業支出金の中で最も大きいのは、会報の発刊・郵送費ですが、全国で活躍されている会員の皆さんとの情報交換と、親睦そして母校の発展のために、何としても継続発刊したいと考えています。

ところが、本会運営の台所事情はひっ迫する現実にあります。つきましては、会員皆さんの絶大なるお力を賜りたく、会費納付のご案内を申し上げます。

会費 一、〇〇〇円/年

同封の振込用紙をご利用ください。または総会、支部総会出席時の納入も可(複数年分の納入も可)。

● 名簿の整備

住所の変更があった方、住所録に間違いがある方等、ご連絡ください。

サッカー部のOBの方々へ

サッカー部のOB会を、試合形式のふれあいと懇親会という内容で、この夏(お盆のころ)母校を主会場に開催する予定です。

詳しい内容は、確定次第ご連絡致しますので、OBどちら様もお体のコンディションを整えられてお待ちしております。

サッカー部OB S44年度卒 小橋正幸
S45 // 長内勉
S46 // 神子沢善明

このような伝言、あるいはクラス会などの案内がある場合は、このコーナーをご利用ください。同窓会報編集事務局FAX 0194-65-5654。

会報編集委員を 募集しています

六人という少ない人数で、会報作成に取り組んでおります。編集に熱意を抱いている方なら誰でもOKです。

来年度以降、更に会報の身を充実させていきたいと考えておりますので、興味のある方々からのご協力、メンバー加入をお待ちしております。なお、直接お手伝いできなくても、内容に関する案だけでもかまいませんので、どうぞお寄せいただければと思います。

編集後記

会報発刊も3度目を迎え、内容も充実してまいりました。編集委員といたしましても、同窓生の皆様の活躍などを大いに掲載し、さらに中身の濃いものを作成していきたいとおもいますので、今後寄稿依頼があった場合は、快く引き受けてくださいますよう。ご協力お願いします。

(まこと)